

韓統連大阪通信紙

自主

チャジュ

372号

2022年2月号

자주

発行 在日韓国民主統一連合
(韓統連) 大阪本部

〒544-0034

大阪市生野区桃谷3-13-6

TEL06-6711-6377 FAX06-6711-6378

毎月1日発行 購読料 年間3000円

郵便振替 00940-7-314392

民族時報社 大阪支社

韓国大統領選挙 選挙戦から見える今の韓国事情

読者の皆様が、この記事に接する頃は投票日まで40日を切っているころだと思います。現在のところ与野党候補の接戦が続いており、当選者を予想するのは大変難しい状況です。今日の聯合ニュース(1/27)によれば「李35%・尹34%・安10%」と報じています。

尹錫悦(ユン・ソギョク)候補(国民の党)は議員でもなく、行政経験もない状況で与党候補と互角以上の戦いをしていることに、現政権への国民の不満がいかに大きいかあらためて感じさせられる事態だと思います。

ここで文在寅政権と尹候補との関係について振り返ってみたいと思います(以後、毎日経済2020/1/11付記事から引用)。2013年4月、朴槿恵政権は李明博政権の国情院を通じた選挙介入疑惑捜査の特捜本部長に尹錫悦当時水原地検豫洲支所長を任命。尹本部長を筆頭に国情院への家宅捜査を行うなど積極的な捜査活動を行った結果、趙ヨンゴンソウル中央地検長は尹本部長への職務解除命令を発令しました。当時、野党民主党議員だった文大統領は「真実を糾明しようとする捜査に外圧が加えられたことは、大韓民国が正常な民主主義国家として機能していない」と批判しました。

2016年、いわゆる「国政壟断ゲート」特捜本部で捜査班長に指名された尹候補は、贈収賄罪事件の大企業側捜査を担当、朴槿恵弾劾を主導したことが文大統領就任につながったとの評価が高まりました。文大統領は捜査が終了した2017年3月「多くの国民とともに心からの激励と感謝の気持ちを伝える」と語り、2019年には文大

統領が尹候補を検事総長に任命しました。

その後、曹國事態や青瓦台関係者への捜査が拡大して文大統領の尹検事総長任命が裏目になった様相を呈しています。

先の総選挙で圧倒的多数の議席を国民から与えられたにもかかわらず、国民の期待に応えられずにいる与党、政府、青瓦台(大統領府)への有権者の怒りが噴出しています。

地価高騰とコロナ禍で中小零細自営業者の廃業が相次ぐ中、韓国の経済成長率が4%と11年ぶ

りの最高値となりました。文政権は明らかに大企業優遇政策に回帰しています。さらに国防費の急拡大と防衛産業振興のための武器輸出に力を入れ、国産武器の販路拡大に力を入れています。

尹候補側にも弱点はありました。尹候補自身の与党議員の捜査資料流出疑惑、国民の力党代表との確執、夫人の経歴詐称などですが、いずれも有権者の離反には至っていません。むしろ尹候補への取材合戦が過熱気味でマスコミの露出効果を生んでいます。

一方、李在明(イ・ジェミン)候補も話題に事欠きません。城南市長当時のニュータウン建設に絡む都市開発公社の不正疑惑などが繰り返し報道され、支持率が伸びない状況が続いています。共に民主党の宋永吉(ソン・ヨンギル)代表は事態の打開のため緊急会見を開き▲自身の次回総選挙不出馬▲議員除名審査の迅速化などを表明しましたが効果は未知数です。キャンドル革命の目標を達成できなかった文政権への国民の審判は、どのような形になるのでしょうか。(鐵)



▲文在寅大統領

尹錫悦候補

参加者みんな和気あいあい オリジナルのピザ作り！ 簡単ピザ作り会

韓統連大阪本部の初企画「簡単ピザ作り会」が1月23日（日）、東成区民センター調理自習室で開かれ、講師は高愛子（コ・エジャ）韓統連大阪本部企画部長が担当した。

ピザ作り会では高企画部長のアドバイスのもと、初めにボウルにピザの生地を作る材料を入れて、手でこねるところから始まり、生地ができた後は、丸く広げてトマトソースやコーンなどお好みの具材を生地にのせ、オーブンで焼くとオリジナルのピザが完成。初めて作ったピザについて参加者からは「とても簡単にできる」「家でも作ってみよう」などの感想が語られた。



▲ピザの生地を作る参加者

コロナ感染が拡大しているため、当初予定していた試食会は取りやめ、作ったピザを各自で持って帰ることにしたが、とても楽しい一時をすごした。

【お知らせ】

「北朝鮮」という呼称の見直しに関して

2021・12・26 在日韓国民主統一連合

- 1 現在、日本ではほとんどすべてのメディアが「朝鮮民主主義人民共和国」の略称として「北朝鮮」を使用しています。
- 2 欧米においても同様に「the Democratic People's Republic of Korea」の略称として「DPRK」と呼ぶべきなのに「North Korea」と呼称している場合が多いようです。
- 3 これに対して当事者である朝鮮政府は、国連の場で公式に「北朝鮮」「North Korea」と呼ばずに「朝鮮」「DPRK」と呼ぶように主張しています。
- 4 当事者が主張しているのですから、これだけでも「北朝鮮」「North Korea」と呼ばずに「朝鮮」「DPRK」と呼ぶべきでしょう。
- 5 また「朝鮮民主主義人民共和国」という正式名称は、どう短縮しても「北朝鮮」にはなりません。そもそも正式名称に「北」という文字がないのです。
- 6 この「北朝鮮」という呼称は、「大韓民国が朝鮮半島における唯一合法政府である」という不当な国連決議（1948年12月12日）に根拠を置いています。38度線以北にある政府は合法政府ではないから、正式国名で呼ばずに「朝鮮半島の北部にある不法に政府を名乗っている集団」として「北朝鮮」と表現しているのです。当然、朝鮮政府はこれを認めていません。
- 7 朝鮮では、略称として「朝鮮」あるいは「共和国」を使用しています。これにならって日本でも「朝鮮民主主義人民共和国」の略称として「共和国」を使用している人がいます。しかし、「共和国」という略称は朝鮮の人々が使う場合は「私たちの共和国」という意味で使っているため略称たりえますが、他の国の人が使ったのではこの共和国なのかわかりません。「共和国」というのは一般名詞であって固有名詞ではないからです。
- 8 韓国社会では一般的に「北韓」と呼称されているので、韓統連ではその日本語訳として「北朝鮮」という呼称を使用してきましたが、今後は「朝鮮」と呼称することにします。
- 9 第三者の発言として「北朝鮮」と言った（あるいは、書いた）ことを引用する場合は「北朝鮮（※正しくは朝鮮）」と表記することにします。
- 10 最近、バイデン大統領が「North Korea」と言わずに「DPRK」と表現していることは注目に値します。

【翻訳資料】 誕生日に息子のもとへ旅立った裴恩深先生 「韓烈とともに安らかであられることを」

「韓烈（ハニョル）、お母さんはお父さんの傍に行かれたよ。もうお母さんはお前を訪ねられないし、お母さんがお前を呼ぶこともない。お父さんがいらっしゃる第8墓域を見上げれば、お母さんは笑ってくださるだろう」。



▲故裴恩深先生

1月11日、オモニ（母）裴恩深（ハ・ウンシム）先生を見送り、弟の李韓烈（イ・ハニョル）烈士の墓地に立った遺族たちは、とうとう声をふるわせて泣きはじめた。この日は裴先生の83回目の陰暦誕生日（12/9）。裴先生がかくも愛し慕った息子李韓烈烈士に会いに行く旅立ちを見送るため民衆が共に臨んだ。

「民主の道、裴恩深オモニ社会葬」葬儀委員会は、この日光州東区の朝鮮大学校病院葬儀場で出棺を執り行った。遺影の前には故人に捧げる誕生日ケーキが置かれていた。

永訣式の終了後、葬儀委員会は路祭が開かれる5・18民主広場へ柩を運んだ。

民主の歴史の中心地である旧全南道庁前は、「民衆のオモニ」裴先生の最後の道を共に歩むべく訪れた市民たちであふれかえっていた。裴先生と先立った民主烈士に黙祷を捧げた後、参加者たちは「あなたのための行進曲」を力強く歌い裴先生を迎えた。

遺族を代表してイ・スンネ氏（裴恩深オモニの長女）が感謝の意を伝えた。彼女は「3日間、ともに居た皆様を見れば、多くの方の記憶の中に、心の中に、オモニがあまりにも大きく、万人のオモニとして存在していたことを知るようになりま

した。オモニが歩まれた道を共に歩んで下さった皆様に心より感謝します」と述べた。

イ・スンネ氏が「オモニ！」と叫んで悼みの気持ちを頭にすると、たちまちあちこちから号泣の音が響いた。「息子の胸を抱きしめて生きてきた年月が35年。『韓烈！』、切なく心から会いたくて、胸が裂けるように泣き叫んだその名も、血がにじむような絶叫も、今はもう聞けない。息子を失い、62才で恨み多いこの世から、本当に早くに旅立たれたアボジ（父）李秉燮。オモニ、アボジ、韓烈と、どうか安らかに…」。

裴恩深先生の遺影と国民勲章牡丹章を先頭に立てた葬儀行進は、裴先生が住まわれた芝山洞の自宅に到着した。裴先生は李韓烈烈士が4才だった1970年から暮らしたこの家を、一生守ってきた。いつでも門を開き、李韓烈烈士が入ってくるようだと話してきた裴先生だ。



▲李韓烈烈士の墓に置かれた裴先生の遺影

葬儀行進は李韓烈烈士が眠る望月墓地第6霊園へ向かった。裴恩深先生は、いつも1987年6月9日の催涙弾襲撃当時の韓烈烈士の写真を撫でながら「お前がなぜそこに居たのか」と惜しんだ。裴先生を傍で支えた彼らは「会いたくて会いたかった息子に会い、あげられなかったオモニの愛をすべてあげなさい」と涙ながらに語った。

裴先生の遺体は配偶者の李秉燮氏の傍である第8霊園に安置された。李韓烈烈士が眠る第6霊園よりも少し高所にある。下棺式に参加した彼らは「下の韓烈が見えるなら…」と惜別の心を交わした（韓国インターネット新聞・民衆の声より）。

【投稿】 わたくしごと一忘れない記憶、忘れてはならない歴史

金昌範(キム・チャンボム)

20歳すぎまで、大阪市北区の天神橋筋6丁目(通称:「天六」)から東方5分ぐらいの所で生まれ育った。その地に住んだのは、生前の父親の生業(当時)と大いに関係があった。

いつからかは分からないが、天六周辺には、いくつかの同胞たちの集落があった。天六交差点北西すぐの所に小規模ながら朝鮮市場があったところを見ると、当時同胞たちがお互いを意識し身を寄せ合うように、いくつかの集落を形成していたことがうかがい知れる。そして、その同胞たちの生活を支え、また集落を形成した要因だったのが繊維工業であった。

わが家も私が物心ついたころには、すでに自宅奥に機械を据えて、メリヤス加工(今で言うニット)に日々いそしんでいた。平屋の家の3分の1を仕事場に占領され、まともな居住空間と言えば押し入れのある4畳半の部屋。そこに家族5人が家財道具とともに長らく暮らした。でも当時はそれが当たり前で、窮屈も不便も何も感じず、むしろ幼少時の私にとっては、その空間と距離感が心地よかった。

さらに私にとって当時(4・5歳のころ)の一番の楽しみは父の配達の時。ホンダのバイクCD125の荷台に、自家製の綿の生成りの大きな風呂敷(メリヤス業だからお手のもの)に目いっぱいいくんだ品物を載せ、天六交差点から西に向かい、済生会中津病院との中間地点の「南浜(いまでも斎場の名で残っている)」にある同胞たちの家内工場の集落に納め、そして荷物をもらって帰ってくる。私はといえば、いつもバイクの燃料

タンクの上に座り、父と一緒にハンドルを握って得意がっていた(今思えば、のどかな交通ルールだった)。父と一緒にいる時間、父が後ろで支えてくれる安心感が、私をいっそう幸せな気持ちにさせてくれた。今日の私の精神性を育んだ土台は、この幼少時のほっこりとした記憶とともに築かれた。民族意識が芽生えたのは、それよりずっと後のことで、むしろ民族というテーマは、私が自分の心を向ける明確な方向性を与えてくれたのだと思う。

大人になり、父にその生い立ちを尋ねる機会をつくり、父もたくさん話をしてくれた。父によると家業が栄え始めたきっかけは朝鮮戦争(1950.6.25~1953.7.27)であったという。もともとは、やはり天六で20歳年上の兄(私から見れば伯父)と始めた家内工場だったが、戦争をきっかけに当時の軍需物資であった綿の値段が見る見る上がり、(すでに仕入れていた綿糸で)タオルを作れば作るほど、高値で飛ぶように売れたという。父が独立したのはそのあとで、やがて家庭を持つに至ったのである。

自分の心を育んだ記憶の背景にあった祖国の惨劇。在日同胞の生業の確立(一部であるが)と祖国の同胞の戦禍での苦しみが、同じ時間軸をはさんで進んでいたことを、皮肉というひと言では片づけることができない。公平に食べていける社会と、和解と共生の気持ちに満ちた平和な祖国。今度こそは、その二つが同じ時間軸のもとに在るように。そんな気持ちを忘れないようにしたい。

2022年韓国大統領選挙を考える集い

日時: 2月20日(日) 午後1時30分 受付 午後2時 開会

場所: KCC会館(地下鉄今里駅下車2番出口より徒歩7分)

内容: 第1部: 情勢講演 自主・民主・統一運動から展望する大統領選挙

講師: 宋世一(ソ・セイル) 韓統連委員長

第2部: パネルディスカッション

パネラー: 李哲(ウリ民主連合会長) 梁千賀子(民族講師) 趙映和(韓青大阪府本部委員長)

コーディネーター: 金昌五 韓統連大阪本部副代表委員

参加費: 800円(青年学生500円)

主催: 韓統連大阪本部 TEL090-3822-5723(崔)

【コラム】 「地獄」をおそれて「天国」に逃げ込むな

—ドラマ「地獄が呼んでいる」が示唆するもの—

●「イカゲーム」を超える

すごいドラマがあらわれた！

韓国ドラマ「地獄が呼んでいる（原題：지옥（地獄）」は衝撃的です。



同じくNetflixで大人気となっている「イカゲーム」をはるかに超える作品だと個人的に思っています。グローバル資本主義の残酷さを描いたのが「イカゲーム」だとすると「地獄が呼んでいる」は宗教に対する痛烈な批判です。

このドラマは、宗教がどのようにして人々の心の中に入り込み、現実の矛盾から目をそむけるように仕向けて来たのか、ということを描写しています。ドラマは2つのパートに分かれています。ユ・アイン演じるチョン・ジンスは新興宗教「新真理の会」の教祖。新真理の会は独特の教義を唱え、急速に信者を増やしています。

その頃、不思議な現象が続いていました。ある日突然天使が現れ、死を予言します。その予言は過酷なまでに正確で、誰もその運命から逃れることはできません。死が予告された時刻になると、どこからともなく三人の使者が現れ、その人物を残酷な方法で、公衆の面前で死に至らせます。死を予言された者は、死んで当然の人間だと世間から決めつけられ、非難されます。まるで中世の魔女裁判です。

●「英雄を求める心理」の裏にひそむもの

新真理の会は、莫大な富を集め、巨大な宗教団体に成長していきます。新真理の会が支配する社会は監視と告発、私的で残酷な暴力がはびこる殺伐とした社会です。人間どうしが助け合って、良い社会をつくっていくのではなく、お互いが不信感を持って暮らす社会。神の裁きを受けるのは罪を犯した悪い人間なので、どんな仕打ちを受けてもしかたがない。人々は自分に裁きの日が来ることをおそれながら日々を過ごしています。

「地獄が呼んでいる」が絶賛されているのは、

宗教に対する深い洞察が含まれているからでしょう。このドラマを見て思ったのは、私たちの中にひそむ「英雄を求める心理」のあやうさです。

「いつか素晴らしい指導者があらわれて、すべてを変えてくれる」という切実な心情。変えようのない厳しい現実と直面したとき、人間が陥りやすい心理でもあります。でも、その考えから抜け出し、自分たち自身の力で新しい世界をつくるのだと決意した時、本当の変革が始まるのです。

奇跡は突然起こるものではありません。変化の瞬間、その一瞬の選択の時に、リスクをおそれず、勇気を出して、未来に向けて飛び出した者にだけ与えられる特権なのです。

●地獄という「リアル」を生き延びる勇気を

理想の社会を目指して、それとはかけ離れた現実を受け入れて生きるのか。理想の社会を目指しつつも、たくましく、現実を変革して行くのか。理想の社会を求めつつ、今を犠牲にすると、宗教に近づいてしまいます。人が宗教に救いを求めるのは、現実が苦しいからです。ただ、現実から逃避しようとしても、生きている限り人間は現実から逃れることはできません。

マルクスが「宗教はアヘンである」と言ったのは、宗教に依存することによって現実から目をそむけるな、ということだと思います。

私たちに今必要なのは「一步踏み出す勇気」です。地獄をおそれて天国に救いを求めるのではなく、現実とリアルに結びついた、ぎりぎりのところで、人間を信じてねばり強く生き抜いて行くのです。

大統領選挙が近づいています。新しい大統領を選ぶのは私たちです。ただ、どんなにすばらしい人物を選んでも、その人物が私たちにすばらしい未来をもたらしてくれるものではありません。

英雄を求めて失望するのではなく、自らの手で未来をつくるのです。そう決めた時に初めて、本当の未来が開けるのです。

「今の時代にパラダイスがあるとすれば、そこへの扉は地獄の中にある —ソルニット」

(キム・ヘス)

【書評】

張吉山 全10巻

黄哲暎 著/鄭敬謨 訳/ソウル書林/全10巻15000円

黄哲暎(ファン・ソギョン)著の大河小説『張吉山(チャンギルサン)』は、とにかく面白かった! まるで韓国歴史ドラマの許浚(ホ・ジユン)、大長今(チヤンゲム)、朱蒙(チュモン)が文字で再現されているかのように、息もつかせず、次を、さらに次を読みたくなる作品だった。

読者を急かしてるのは、巧みなストーリー展開、それを支える文章表現の豊饒さ、そして物語の底に流れ、ときに一挙に噴出し奔流する民衆解放思想の深さにあるだろう。

また知らなかった旅芸人の広大(カンデ)、巫女、奴婢など被差別階級の暮らし風俗、両班による理不尽な差別、社会情勢なども丹念に書きこんであり、それにも興味がそそられる。例えば韓国の歴史ドラマでよく見る、市中で見せしめのための斬首。

踊りながら首切りをする者も死刑囚で、劊子手(マンチ)と呼ばれ、他人の首を切ることで自分が生きながらえるという残酷な制度を知る、とか。

主人公の張吉山は奴婢の子として路傍で産み落とされ、母は亡くなり、お産を助けた広大と巫女の夫婦に育てられる。つまり封建支配と制度における徹底的な被差別者として生を受け、生きざるをえなかった。やがて彼は曲折をへて、友や師の助けを受けながら自己を鍛錬し、義賊として封建王朝を転覆する思想をつかみ、闘いを開始する。張吉山は生父との対座で自分の仕事、理想を次のように語る。



「生まれながらにして人が貴種と賤種に峻別され、貴種が賤種を奴隷として酷使するばかりか、牛馬のように売り買いする惨たらしい制度を廃止させる、兜率陀天の龍華世界、つまり反正(クーデター)を超えた新しい立国」(第10巻)

しかし、それはたやすく実現しないし、歴史においてもそれが果たせなかったことを私たちはよく知っている。つまり『張吉山』は、敗北の物語である。にもかかわらず、この作品は読者を強くはげます。作品に描かれている民衆の苦痛と怒りは、私たちが生きているこの時代にも通底しており、苦しみのなかでもがきながらも、このいまではない別のいまを求めるところこそが、人としてこの世に生を受けたことの意味なのだ、と、伝えているからである。

この大河小説には逡巡や葛藤、友情と愛、へつらいと裏切りを体現する人物が、それぞれに躍動する。それは私のなかにいる、さまざまな私であり、彼/彼女らへの共感と反発を通して、私自身をも知ることもできる。『張吉山』は、主人公に収れんしない巨大な群像劇であり、これもまた大きな魅力であることを強調しておきたい。

なお、『張吉山』全10巻は同書刊行委員会の一員で在日韓国良心囚同友会の会長である李哲さんにメールで依頼すると、送料込み15000円で送ってもらえます。李哲さんのアドレスは leechul1028@yahoo.co.jp。(黄英治)

◆◆行事予定◆◆

3・1独立運動103周年 日韓・日朝関係の現状と展望を考える大阪集会

日時：3月1日(火)午後6時 受付 午後6時30分 開会

場所：エルおおさか708号(京阪・地下鉄天満橋駅下車徒歩7分)

内容：講演「なぜ、最悪の状態になったのか?日韓・日朝関係の現像と展望」

講師：金昌五(私・チヤウ)韓統連大阪本部副代表委員

資料代：1000円

主催：日韓平和連帯 TEL06-6583-5549(全日建連帯労組近畿地方本部)